

平成27年度 第1回教育改革ICT戦略大会運営委員会
議事概要

I. 日時 平成27年5月20日(水) 17:00~19:00
場所 アルカディア市ヶ谷(私学会館)

II. 出席者 向殿委員長、濱谷副委員長、竹内委員、波多野委員、服部委員(ネット参加)、田宮委員、高木委員、島貫委員、川村委員、梅田委員、友永委員、木村アドバイザー
(事務局:井端事務局長 平田職員)

III. 検討事項

今回は、平成27年度大会委員会の委員構成、大会開催日を踏まえた準備スケジュール等の確認を行った上で、27年度大会の開催テーマ、プログラムの各テーマと内容、依頼先について方向性を確認した。

1. 平成27年度大会について

(1) 開催テーマ

「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について」(平成26年12月22日中央教育審議会答申)では、「真の学力」とは育成知識、技能、思考力、判断力、表現力を蓄えて、主体的な態度で多用な人々と学びができることとしており、真の学力を育成するには、教育の質的転換を大学が実施する以外に、高校でも真の学力の育成が必要であると述べている。そこで、本大会では、「真の学力」を育成するための教育の大転換」といったテーマにしてはどうかとの事務局からの提案を受けて検討した結果、同テーマを開催テーマとすることを確認した。

(2) 大会プログラム方針

事務局より大会プログラム案、テーマ、講師案について次の通り説明した。

① 全体会の方針

初日の前半はアクティブ・ラーニングなど話題性のあるテーマを設定し、後半では、主体性を引き出す取り組み、最後に入学者選抜改革の話題を出してはどうか。まず、真の学力を育成するには、大学でどのような取り組みが必要なのか考えてもらうために、アクティブ・ラーニングなどで主体性を引き出す教育の必要性や実質化するための課題、全学的に展開するために必要な仕組みなど事例を通じて紹介いただく。

② 全体会の各プログラム内容

アクティブ・ラーニングについての共通認識を深めるため、長崎大学よりアクティブ・ラーニングの重要性、教員がどのように意識改革していくべきかを紹介いただく。また、アクティブ・ラーニングを全学的に展開するために様々な取り組みをしている事例として徳島大学から紹介いただき、特に教員のティーチングスキルを向上させるためのアクティブ・ラーニング入門の設定、ティーチングポートフォリオによる授業の振り返り全教員がFDに関わることで大学全体にアクティブ・ラーニングを波及させる。という目標、構想を中心に紹介いただく。次に山梨大学から、知識量を獲得するための反転授業の必要性や、反転授業を推進するための方策、実践例を踏まえて教室授業のマネジメント、教室環境、教員への理解促進の努力と波及について紹介いただく。主体的な学びを育成するための初年次教育として、一般社団法人 Future Skills Project 研究会(FSP研究会)で実施している初年次教育における産学連携のPBL授業と運営の工夫、受講生からみた学修効果、支援企業の参加への思いや期待、成果などの評価、担当教員からみた学修

成果と課題について紹介いただき、アクティブ・ラーニングの前に意識づけが必要であることを提示したい。最後に、文部科学省顧問の安西祐一郎先生より、知識、技能以外に、思考力、判断力、判断力も高校の指導要領に入っており、高校の役割となっているので、それを徹底してもらうために大学入学選抜の改革の必要性を提案いただく。

③ 2日目のテーマ別分科会の方針

地域社会との連携も含めたアクティブ・ラーニングやそれを支援するための教学マネジメントについてもテーマとして設定する。その他に、どのように学びが達成できているか学修成果の可視化やLMSを活用した学修行動のモニタリングについてのテーマとする。また、他分科会とはまったく異なる内容ではあるが、情報リテラシー教育に関するテーマを設定。これは、これまでの本協会の情報リテラシー教育のガイドラインは高校の情報教育を基盤にしたものであったが、新しい価値を創出できる力を育成する教育に内容を修正し、初年次以外にも徹底させていくようなガイドラインを新たに作成する予定であるので、この原案について分科会で意見をもらいたい。

④ テーマ別分科会の各プログラム内容

- ・分科会A：地域社会での活躍を目指したアクティブ・ラーニングによる人材育成

広島県立大学より、地域創生を背景にした教室外での学びを導入、協働学修、反転授業、プロジェクト学修、双方向性授業の取り組み、全学的な取り組みへの展開を紹介いただき、追手門学院大学からは、地域総合学部という学部創設と教育のねらい、アクティブ・ラーニングへの取り組みを紹介いただく。

- ・分科会B：学修行動モニタリング、学修成果の可視化

芝浦工業大学より、学修成果の可視化とPDCAサイクルによる保証、山口大学より学修成果の可視化モデル、ループリック評価、学修到達度調査、学修行動調査を紹介いただく。

- ・分科会C：教学マネジメント体制の確立への試み

金沢工業大学よりシラバス点検など様々な教学マネジメント体制づくりについて紹介いただき、横浜国立大学より全学的教学ガバナンス機能の強化、厳格な成績評価と卒業認定システムへの移行のための教育改革について紹介いただく。

- ・分科会D：価値を創出させるデータ活用力

前記③の分科会方針説明と内容は同じであるので、説明省略。

事務局からの説明を受けた結果、分科会C「教学マネジメント体制の確立への試み」については現在では教職一体となった仕組みも重要であるので、そのような取り組み事例を1大学入れてはどうかとの提案もあり、今後検討することとした。その他のプログラム方針については、趣旨は把握できたので提案どおりでよいとの意見に一致し、提案どおりに講師の打診等を開始することにした。その上で、講師の変更などが必要な場合は次回委員会で確認することにした。

(3) 3日目の事例発表について

事例発表は78件の応募があり、これから一部の委員に事前審査を分担して行っていただき、発表募集要項の趣旨から外れていると思われるものについては、委員長に確認いただいた上で、採否を決定することを確認した。

2. 次回委員会

次回委員会は、事務局で事例紹介等の打診を行った結果を踏まえて、具体的な説明文なども入れた開催要項を完成することにし、欠席委員も含めて改めて日程調整を行った上で開催することにした。

以上